

6 3 6 1 - 7 9
平成 1 7 年 7 月 2 6 日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成 1 7 年度病害虫発生予報第 4 号について
平成 1 7 年度病害虫発生予報第 4 号を発表したので送付します。

平成 1 7 年度病害虫発生予報第 4 号

向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。
発生予報の概要

作物名	病害虫名	発生量の 平年比	本文の記 載ページ
普通期水稲	葉いもち	やや少	2
	紋枯病	並	2
	ツマグロヨコバイ	やや多	2
	セジロウンカ	多	2
	トビイロウンカ	並	2
	コブノメイガ	少	3
野菜類全般	アブラムシ類	並	3
	ハスモンヨトウ等のチョウ目(鱗翅目)害虫	並	3
トマト	トマト黄化葉巻病(シルバーリーフコナジラミ)	多	3
果樹全般	果樹カメムシ類	少	4
カンキツ	かいよう病	多	4
	黒点病	やや少	4
	ミカンハダニ	やや少	4
	チャノキイロアザミウマ	多	5
チャ	炭疽病	並	5
	もち病	並	5
	チャノコカクモンハマキ	並	5
	チャハマキ	やや多	5
	カンザワハダニ	やや多	5
	チャノキイロアザミウマ	やや多	6
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	6
	クワシロカイガラムシ	多	6

作物の生育状況(7月中旬)

普通期水稲は分けつ最盛期、温州みかんは果実肥大期、茶は3番茶の摘採前であった。

8月の気象予報

気温は平年並か高い、降水量、日照時間は平年並と予想されている。

(1か月予報 鹿児島地方気象台7/22発表)

発生予報の根拠および防除対策

普通期水稻

1 葉いもち（やや少）

[予報の根拠]

- 1) 7月上旬の葉いもちの発生面積率7.1%（平年24.6%）、発病株率1.05%（平年2.9%）は平年より少ない。
- 2) 8月の気温は平年並みか高い、降水量は平年並と予想されている。

[防除上の注意]

- 1) 葉いもちの見られるほ場では早めに防除する。
- 2) 穂いもちについては、出穂前に粒剤を施用するか、粉剤または液剤による穂ばらみ後期と穂揃期の防除を徹底する。

2 紋枯病（並）

[予報の根拠]

- 1) 7月上旬の巡回調査で少発生の1圃場が確認されたが、平年よりやや早い発生である。
- 2) 8月の気温は平年並みか高い、降水量は平年並と予想されている。

[防除上の注意]

- 1) イネの抵抗性が低下する幼穂形成期から穂ばらみ期にかけて上位葉鞘に進展するので、防除は穂ばらみ期に行い、その後も上位葉鞘への進展が続く場合は2回目の防除を実施する。

3 ツマグロヨコバイ（やや多）

- 1) 7月上旬の発生面積率42.9%（平年31.1%）は平年よりやや多、20回すくい取り虫数3.6頭（平年1.1頭）は平年より多である。

[防除上の注意]

- 1) 萎縮病、黄萎病を媒介するので注意する。

4 セジロウンカ（多）

[予報の根拠]

- 1) 7月上旬の発生面積率97.5%（平年68.5%）は平年より多、20回すくい取り虫数175.1頭（平年8.2頭）は平年より多である。
- 2) 6月下旬～7月上旬まで梅雨前線の活発な活動による断続的な下層ジェット気流の発生が確認されており、予察灯でも多数誘殺されている。

[防除上の注意]

- 1) 幼穂形成期頃に多発生すると吸汁による生育抑制、下位茎葉の黄変枯死、出穂の遅れが生じるので、発生状況を見て若齢幼虫期に防除する。

5 トビイロウンカ（並）

[予報の根拠]

- 1) 7月上旬の発生面積率2.4%（平年1.8%）は平年並みである。
- 2) 延岡市、都城市、佐土原町の予察灯において、7月第2～3半旬の時期にやや多い飛来が確認されている。

[防除上の注意]

- 1) 少ない飛来量でも増殖率が高く、坪枯れ等大きな被害が生じるため、長期残効型の箱施薬を行っている場合でも、ほ場での増殖に注意し、7月下旬～8月上旬頃の短翅型雌の防除を徹底する。（要防除密度は短翅型雌成虫が株当たり0.2頭）

6 コブノメイガ (少)

[予報の根拠]

- 1) 7月上旬の発生面積率9.5%(平成61.8%)は平成より少ない、被害株率1.1%(平成16.6%)は平成より少ない。
- 2) 県内2か所(都城市・えびの市)のライトトラップ、予察灯でもほとんど誘殺されず、飛来量は少ない。

[防除上の注意]

- 1) 防除適期は、粒剤を使用する場合は発蛾最盛期で、粉剤及び水和剤等を使用する場合は幼虫ふ化期(発蛾最盛期の7日後)である。

野菜類全般

1 アブラムシ類 (並)

[予報の根拠]

- 1) 黄色水盤トラップ(佐土原)による誘殺数は平成並に推移している

[防除上の注意]

- 2) 作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

2 ハスモンヨトウ等のチョウ目(鱗翅目)害虫 (並)

[予報の根拠]

- 1) ハスモンヨトウのフェロモントラップでの誘殺数は、都城市、西都市では平成並、佐土原では平成よりやや少ない傾向である。
- 2) タバコガのフェロモントラップ(西都市)での誘殺数は概ね平成並である。
- 3) オオタバコガのフェロモントラップ(西都市)での誘殺数は平成より多く、7月第1半旬にピークが見られた。
- 4) 8月の気温は平成並か高い、降水量、日照時間は平成並と予想されている。

[防除上の注意]

- 1) 早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。

トマト

1 トマト黄化葉巻病(シルバーリーフコナジラミ) (多)

病害虫発生予察注意報第4号参照

[予報の根拠]

- 1) 宮崎市南部地域の4地点で行っている黄色粘着トラップを用いた媒介虫(シルバーリーフコナジラミ)誘殺数調査において各地点とも6月以降の誘殺数が急激に増加している。
- 2) 8月の気温は平成並か高い、降水量、日照時間は平成並と予想されており、媒介虫の増殖に好適である。

[防除上の注意]

- 1) 育苗期に感染すると被害が激しく全滅する場合もあるので、媒介虫の施設への侵入を防ぐため、育苗・栽培施設の開口部は、0.8mm目以下(0.4mm以下が理想)の防虫ネットを設置するとともに、育苗期間中の防除を徹底する。
- 2) 育苗ハウスに黄色粘着板を設置し、密度低下に努めるとともに、媒介虫の発生が確認された場合は、すぐに殺虫剤の散布を行い徹底的に駆除する。
- 3) 育苗前にコナジラミ類の増殖源となる周辺の雑草は除草する

果樹全般

1 果樹カメムシ類 (少)

[予報の根拠]

- 1) 最近(6月第4半旬～7月第3半旬)のチャバネアオカメムシ誘殺数は、過去6ヶ年平均と比較して少ない傾向である。

表1 フェロモントラップによるチャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシの誘殺数(6月4半旬～7月3半旬)

	延岡市		都農町	
	チャバネ	ツヤアオ	チャバネ	ツヤアオ
平成17年	17.5	0	34.8	0
平成16年	523	0	292	0
平均(11～16)	355	4	282	0

[防除上の注意]

- 1) 果樹カメムシ類は園外から飛来し、地域や時期によって発生量が大きく変動するので、園内外を見回り、早期発見・早期防除に努める。

カンキツ

1 かいよう病 (多)

病害虫発生予察注意報第6号参照

[予報の根拠]

- 1) 7月中旬の春葉調査では、発生面積率50.0%(平年15.9%)、発病葉率4.7%(平年1.0%)は平年より多い。

[防除上の注意]

- 1) 発病した枝葉は伝染源となるので可能な限り取り除き園外に持ち出して焼却する。
- 2) 風雨による枝葉の損傷を少なくするため防風垣を整備する。特に台風の襲来が予想される時は事前に薬剤散布を行う。
- 3) ミカンハモグリガの被害も重要な病菌侵入口となるので、夏秋梢の発生の多いほ場では防除を徹底する。

2 黒点病 (やや少)

[予報の根拠]

- 1) 7月中旬の果実調査では、発生面積率10.0%(平年20.7%)は平年よりやや少、発病果率2.1%(平年3.4%)は平年並である。
- 2) 8月の降水量は平年並と予想されている。

[防除上の注意]

- 1) 伝染源となる枯れ枝は、可能な限り取り除き園外に持ち出して焼却処分する。
- 2) 雨が多いと多発する恐れがあるので、積算降水量300mm毎又は1か月おきに薬剤散布を行う。

3 ミカンハダニ (やや少)

[予報の根拠]

- 1) 7月中旬の発生面積率35.0%(平年35.1%)は平年並、寄生葉率2.0%(平年5.1%)は平年より少ない。

[防除上の注意]

- 1) 生息密度が高くなると防除が困難になるので、寄生葉率 30% (1 葉当たり虫数 0.5 ~ 1 頭) を目安に防除を行う。

4 チャノキイロアザミウマ (多)

病害虫発生予察注意報第 7 号参照

[予報の根拠]

- 1) 7 月中旬の発生面積率 15.0% (平年 2.6%)、寄生果率 1.3% (平年 0.1%) は平年より多い。
- 2) チャにおける発生も平年に比べやや多の発生である。

[防除上の注意]

- 1) 密度が高くなると防除が困難になるので、1 果当たり虫数 0.3 頭を目安に防除を行う。

チャ

1 炭疽病 (並)

[予報の根拠]

- 1) 7 月中旬の発生面積率 29.4% (平年 54.7%) は平年よりやや少、 m^2 当り病葉数 2.6 (平年 4.5) は平年並である。
- 2) 8 月の降水量は平年並と予想されている。

[防除上の注意]

- 1) 新芽の生育期に雨が多いと発生しやすい。開葉期に防除を行い、多発生が予想されるときには追加防除する。

2 もち病 (並)

[予報の根拠]

- 1) 7 月中旬の巡回調査では発生未確認である。

[防除上の注意]

- 1) 秋芽の生育期に雨が多いと感染しやすい。特に中山間地域では発生が多いので秋芽の生育期に薬剤散布をする。

3 チャノコカクモンハマキ (並)

[予報の根拠]

- 1) 7 月中旬の巡回調査では発生は認めていない。
- 2) 都城市、三股町に設置したフェロモントラップ調査では、6 月第 4 半旬に平年より多数の飛来が確認されている。

[防除上の注意]

- 1) フェロモントラップ調査 (3 箇所) での発蛾最盛期は 6 月第 4 半旬で、次の発蛾最盛期は 7 月下旬 ~ 8 月上旬と予想される。
- 2) 発蛾最盛期の 7 ~ 10 日後が防除適期である。

4 チャハマキ (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 7 月中旬の巡回調査での発生面積率 23.5% (平年 5.3%) は平年より多、 m^2 あたり虫数 0.8 頭 (平年 0.1 頭) は平年よりやや多である。

[防除上の注意]

- 1) フェロモントラップ調査では、都城市での発蛾最盛期は 6 月第 4 半旬、田野町、三股町での発蛾最盛期は 6 月第 6 半旬頃と予想される。
- 2) 発蛾最盛期の 7 ~ 10 日後が防除適期である。

5 カンザワハダニ (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 7月中旬の発生面積率11.8%(平年16.4%)は平年並、寄生葉率2.1%(平年1.3%)は平年よりやや多である。

[防除上の注意]

- 1) 同一薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のロ・テ・ション散布を実施する。

5 チャノキイロアザミウマ (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 7月中旬の払い落とし調査による発生面積率88.2%(平年58.3%)、払い落とし虫数22.4頭(平年8.0頭)は平年よりやや多である。

[防除上の注意]

- 1) この時期は卵・幼虫・蛹・成虫が混在し、とくに蛹は地表面にいて防除効果が低いので残効性の長い薬剤か1週間間隔での連続散布を行う。

6 チャノミドリヒメヨコバイ (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 7月中旬の見取り調査による発生面積率52.9%(平年44.2%)、寄生葉率4.8%(平年4.6%)は平年よりやや多である。

[防除上の注意]

- 1) チャノキイロアザミウマとの同時防除とする。

7 クワシロカイガラムシ (多)

[予報の根拠]

- 1) 7月中旬の巡回調査では発生面積率58.8%(平年11.2%)、寄生株率24.7%(平年0.8%)は平年(過去8カ年平均)より多である。

[防除上の注意]

- 1) 最近、増加傾向にあるので早期発見に努める。(周縁部から発生しやすい。)
- 2) 防除適期は幼虫ふ化開始から1週間後、または幼虫ふ化最盛期なので、ふ化状況をよく観察して防除する。
- 3) 薬剤散布は、成木園で10a当たり1,000リットル程度を目安に、噴口を茶株の中に差し込むなどして枝幹に十分かかるようにていねいに散布する。

その他

- 1 農薬適用の有無などについては次のホームページで確認する。

日本植物防疫協会ホームページ <http://jppn.ne.jp>

農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>

- 2 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。特に水質汚濁性農薬ベンゾエピン剤(商品名、マリックス乳剤、粒剤等)は使用しないこと。

- 3 発生量(程度)の区分

多	い	(高	い)	やや多いの外側10%の度数の入る幅
やや多い		(やや高	い)	平年並の外側20%の度数の入る幅
平年並				平年値を中心として40%の度数の入る幅
やや少ない		(やや低	い)	平年並の外側20%の度数の入る幅
少ない		(低	い)	やや少ないの外側10%の度数の入る幅 (平年値は過去10年間の平均)

- 4 予察情報の種類

病害虫防除・肥料検査センターから発表する情報は次の5つです。

- 1) 予報・・・向こう1か月の発生状況を予測し、毎月25日前後に発表する。
- 3) 注意報・・・主要な病害虫の多発生が予想され、かつ早めに防除が必要な場合に発表する。

- 4)警 報・・・主要な病害虫の大発生が予想され、かつ緊急に防除が必要な場合に発表する。
- 5)特 殊 報・・・県内で初めて発生を認めた病害虫がある時や、病害虫の発生様相が特異な時に発表する。
- 5)防除情報・・・注意をうながす必要がある病害虫の発生状況や、各種の防除技術指導情報について随時発表する。

お知らせ (<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>)

病害虫防除・肥料検査センターでは、ホームページで情報を提供しています。予察情報の根拠となる地域別調査データ、防除対策等を掲載しています。ぜひご利用ください。

【 文書取扱 】

病害虫防除・肥料検査センター 櫛間

TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-7499

E-mail : byogaichu-hiryo

@pref.miyazaki.lg.jp